



発行所
新潟市万代島
日本海区水産研究所
印刷所
第一印刷所
株式会社

日本海

日本海の水産を総合的に私共が研究しはじめてから明けて足かけ九年になる。八年とか九年とか言うて決して短かい年月ではないが、この間に私共がなし遂げた為事を回顧してみるとしくじたるものが尠くない。

研究は研究として、一応完成したものであるし、目下続行中のももあるが、それ等を一括して言うて、もう一寸押しが足りないと言ふか、または迫力が無いと言ふのか、それとも影響力が乏しいと言つたらよいか、表現に迷ふことだが、兎角押え方が足らないような印象が少なくない。

こうした原始産業の発展を前途として、私共が行つてゐる研究は、全体からみると、ほんの一部に過ぎないのだから、幾ら一つの研究がうまくいったからと云つて、それが直ちに全体に作用して、一段と業界を躍進せしめることが出来るなどと思ふことは、それ自身が、思いすぎだから、一つ一つと資料を集めたり、研究を果ねることが大切だと言つてもらつたとしても、

そのこともよく理解出来ながら、未だ納得出来ない節がある。

と云うのは、私共が現在実施している諸研究において、更に乗り越すべき問題が前面にあつて、それを乗り越さなくては、多くの資料も研究もただの資料であり、研究で終つてしまふのでないかと思はれることに気付いてゐるからである。

私共が乗り越さなくてはならないと云うのは、一体なにかと云えば、それがなかなか判然としないのは、余りにも乗り越すべき山が多すぎる感が深いからである。

かつてのこと総ての三角形は、円周に内接すると云ふことがわかつてから、幾何学の進歩が飛躍的であつたように、私共の多くの研究のすべてが円周に内接すると云うような事実はないのだろうか。

今年はや暖流調査も一応終る年であり、資源調査も篤と反省する資料の集つてゐる年でもある。乗り越すべき山々が定かに見えるところに來てゐることは、今まで登りきつた過程を回顧展望してみればわかることであらう。

(筆者日本水研所長)

(一) 山口県水試

一、対馬暖流調査

(1) 海洋調査

定線海洋観測(三線一三回一NW70°~E2535°~見島NW36°見島N10°須佐見山NW55°~青森島)

定地観測(蓋井島、角島、仙崎、大島見島の五カ所)

(2) 魚礁調査

見島沖合、角島沖合魚礁を中型まき網船をもつて開発調査する。

(3) 本県沖合の混合水域における「イカ」漁場の開発

見島西方海域並びに角島沖合海域におけるイカ漁場の開発を行う。

(4) 標識放流

アジ、サバ(三〇〇〇尾)ブリ(二二〇尾)の放流を実施する。

(5) 生物調査

サバ、アジ、サンマ、ブリイカについて魚体調査を行う。なお、明、稚仔プランクトン調査も行う。

(6) 化学調査

主としてサバ、イワシの生化学調査及び鮮度保持試験も行う。

(7) 漁村実態調査

管内萩市大島或は見島並大津郡油谷町川尻或は大浦の漁村部落の実態調査を行う。

日本海区各水試

昭和32年度事業予定(統No.1)

二、水産業技術改良普及指導

一本釣、やすまき刺網、小型まき網、ブリ建網の先達漁船による漁業技術の改良普及を行うもので、十二研究組合を結成し指導の予定及び漁船機関の取扱巡回指導を行う。

三、沿岸資源調査

イワシ資源の調査を行う。

四、漁村新生促進指導

漁村の振興をはかるため左の事業を行う
(1) 漁村青年研究グループの技術指導
現在二五の研究グループが結成されており、グループの研究課題について検討指導を行う。

(2) 講習会の開催

大羽鱸流刺網漁業その他一本釣、浅海増殖、製造加工等について講習会を開催して漁民の技術の向上に資する。

主なる項目 — 第 72 号 —

- ・日本海
- ・日本海区各水試昭和32年度事業予定
(一)山口県水試
(二)青森県水試
- ・第一回新潟県水産業研究発表大会
- ・魚探
- ・日本海沖合漁場開発調査協議会
- ・漁業者のみた日本海産サケマスの種類
- ・日本海区におけるマス漁獲高
- ・人事移動

(3) 移動水産試験場

漁閉期を利用して試験船に各専門技術職員が乗船して管内漁村を巡回して漁民との懇談会を開催し、漁民からの質疑応答等を行い漁民と試験場の緊密化を図る。

五、調査指導船の建造

大型調査指導船(二〇〇屯六〇〇馬力)の建造を計画している。

六、漁業予報及び速報

日本海西部並びに北九州各県水産試験場と緊密な連絡のもとに漁況の予報及び速報を行わんとするもので対象漁業は左の通りである。

(1) 大羽中羽小羽いわし漁業

五月—翌年三月

(2) アジ、サバ漁業

四月—六月 八月—十二月

(3) シイラ漬漁業

六月—十二月

(4) ブリ漁業

三月—五月

(5) 飛魚漁業

五月—七月

(6) イカ漁業

六月—十一月

(7) 特定海域漁業多角化調査

十月—翌年一月

(8) 飛魚漁業

五月—七月

(9) イカ漁業

六月—十一月

(10) 特定海域漁業多角化調査

十月—翌年一月

(11) 飛魚漁業

五月—七月

を対象とした出漁調査を行う。

南方—宮崎、鹿児島方面の飛魚及び

漕釣を対象として出漁調査を行う。

九、魚田開発精密調査

管内全沿岸海域の精密な調査を三カ年計画で行い、逼迫せる漁村経済振興の基礎を作り、市町村をして実施せしめるもので調査項目は次の通りである。

(1) 定着生物布状況調査

(2) 水深分布調査

(3) 底質分布調査

(4) 潮流調査

(5) 水質調査(浅海成分調査)

十、真珠養殖試験

本県真珠養殖事業の振興をはかるため新漁場の開拓採苗、種苗の配布、その他真珠養殖改良試験を行う計画である。

一一、水産物高度利用試験

本県における二次加工生産の振興を計るため、削節、燻製品、佃煮、フケ肝臓の利用、煮汁の利用等の試験を行う計画である。

一二、水産煉製品保蔵対策試験

本県水産加工品中最も大きい煉製品について、これが各種薬品及び包装等による保蔵対策を試験研究せんとするものである。

一三、人工乾燥機改良試験

梅雨期における若干製品の腐敗防止のため各地にある各種人工乾燥機を取りあげこれを改良して能率の良い乾燥機の試作を行う計画である。

(二) 青森県水試

一、水産業技術改良普及

(1) 先達漁船漁業技術改良普及

沿岸漁業の振興策として漁民の研究組織を育成し個々の経営技術を改良して生産技術、漁具漁法及び増殖技術の水準を高め漁業の多角化、協同化によって漁場資源を合理的恒久的に利用する。

(2) 水産機械等取扱巡回技術改良

漁船の急激な増加に伴い機関を取扱う乗組員の素質及び技術低下の傾向が認められるので専門技術者を巡回せしめ基礎知識、技術の改繕普及を計り漁業の健全化を計る。

二、漁業調査試験

(1) 西海岸、陸奥湾、太平洋海区におけるイワシ流網試験

流網昼間操業の可能性夜間浮上時に於ける中層曳網の検討、年級変動の検討地方変異、形態的特性の問題産卵洄游と産卵後の追跡。

(2) 西海岸南部海区における油鮫延縄漁業試験

時季的分布洄游移動経路の状況海況生態及び形態調査(産卵地、変異年令組成)資源量調査

(3) 西海岸海区におけるサバ一本釣漁業試験

時季的洄游移動状況、海況と漁況との関係生態及び形態調査、生産力調査

産力調査、生態及び形態調査

(5) 津軽海峡周辺における油鮫延縄漁業試験

時季的分布洄游移動状況と漁況海況との相関関係、生態形態調査資源量生産力調査

(6) 津軽海峡周辺におけるイカ基礎調査試験

海況と漁況洄游移動状況、生態形態調査、資源量調査、漁具漁法の改良試験

(7) 久六島周辺における延縄漁業試験

久六島周辺の延縄漁業の確立漁場価値の検討生産力調査

(8) 海洋観測調査(三月—十一月年四回)

対馬暖流の時季的消長
権見崎正西五〇哩海洋観測
冷水塊の漁業に及ぼす影響
舩作崎正西八〇哩海洋観測
海況と漁況との相関関係

尻矢一恵山岬海洋観測

(9) 北緯四八度以南海域におけるサケ、マス延縄漁業試験

サケ、マスの時季的分布洄游移動状況、海況と漁況との相関、漁期及び漁場、生産力調査

(10) 日本海北部海区における底棲魚族資源調査

深海(自四〇〇米—七〇〇米) 漁場開拓、底棲魚族の生産力及び資源量調査

(11) 太平洋岸におけるサバ一本釣漁業試験

時季的洄游移動状況、海況と漁況関係生態の調査 船体操業装置の研究及び餌料改良試験、一本釣漁業技術指導

北方—北海道、青森、宮城県方面のカラフトマス、ニシン、フカ漁業

- (12) 北部日本海(舂作海区)における底曳網漁業試験
 - ① 深海(四〇〇米〜七〇〇米)漁場開拓
 - ② 底棲魚族の生産及び資源量調査、時季的分布移動調査
- (13) 太平洋海域におけるねずみ鮫延縄漁業試験
 - ① 時季的分布洞游移動状況、海況と漁況との相関関係、生態形態調査、資源量生産力調査
 - ② 太平洋海区及び津軽海峡周辺におけるマス流網試験
 - ① 時季的分布洞游状況、海況と漁況生産力調査、生態及び形態調査
- 三、浅海内水面増殖指導調査
 - (1) 浅海増殖適地調査
 - ① 浅海増殖の適地基礎調査を実施し積極的に増殖指導を促進し生産力の向上を計る
 - (2) 海藻資源増殖調査
 - ① てんぐさ、つのもた類の増殖を計る
 - (3) 湖河性サケマス増殖指導(相坂養魚場)
 - ① 孵化放流指導
 - ② ニジマス増殖指導(相坂養魚場)
 - ① 種卵配布及び増殖指導
 - ② ヨイ増殖指導(相坂養魚場)
 - ③ 種苗配布及び増殖指導
 - ④ 餌料試験(相坂養魚場)
 - ⑤ 餌料効果試験
 - (7) 湖河性サケマス増殖指導(小河原沼養魚場)
 - ① 孵化放流指導
- (8) 上、下北郡湖沼群調査(小河原沼養魚場)

- 湖沼生産力についての基本調査
 - (9) カラスガイ真珠養殖試験(小河原沼養魚場)
 - ① 核投入試験
 - (10) 湖河性サケマス増殖指導(黒石養魚場)
 - ① 孵化放流指導
 - ① ヨイ、キンギョ増殖指導(黒石養魚場)
 - ② 種苗配布及び増殖指導(黒石養魚場)
 - ③ ニジマス増殖指導(十二湖養魚場)
 - ① 種卵配布及び増殖指導
 - ② シジミ生態調査(十三湖水産指導所)
 - ① 生態形態調査移植試験資源量調査
 - ③ 有用魚類漁業試験(十三湖水産指導所)
 - ① ボラ、ズズギ、ウグイの海況と漁況調査、生態資源量調査
 - ② 生産力調査(十三湖水産指導所)
 - ③ 海洋調査 主要魚族の生物的調査
 - ④ 水質汚毒調査
 - ① 内水面及び海面に影響する工業排水、鉱山排水の調査と無毒化について指導
 - 四、製造試験
 - (1) スルメイカ高度利用試験
 - ① スルメイカの餌料化、調味料の製造試験
 - (2) ビタミン資源調査
 - ① 生態と肝油、ビタミンA関係
 - (3) サメ肉利用試験
 - ① 油酸燻製々造試験
 - 五、講習講話
 - (1) 漁村における講習講話
 - ① 冬の長閑期を利用し漁村の青年に航海術機関技術、漁撈、製造増殖等に関する講習講話を実施し水産知識を普及

六、漁村の振興を計る。
イワシ資源調査

西海岸、陸奥湾内におけるイワシ類、漁況及び産卵調査ならびに油川、蟹田船岡三調査地点における魚体調査。

第一回新潟県

水産業研究発表大会

新潟県及同県漁業協同組合連合会共催の首題発表会が去る一月一六日新潟市において開催され極めて盛会で、今後の発展が期待される。

発表題目(一三題)

- 一、両津漁民青年会の運営について (左近 勇)
- 二、八艘張網漁業の研究改良について (小林 庄治)
- 三、さば曳釣並びに一本釣漁業について (本間 幸男)
- 四、きす一本釣漁業 (村山 仁策)
- 五、いわし流網漁業における魚探の利用方法について (五十嵐 与作)
- 六、魚探反応による魚群の形態 (高橋 重雄)
- 七、すけとう延縄漁業について (小林 喜八)
- 八、敷網(六艘張網)漁業について (三浦市之助)
- 九、延縄による金頭口細釣(斎藤 仁吉)
- 一〇、底曳漁業の経営実態について (勝本 正一)
- 一一、一本釣漁業について(福島清沼郎)
- 一二、曳釣の改良と要領(諸橋 啓助)
- 一三、知事賞◎漁連会長賞●日報社長賞(新潟水試)

鮭は生れた特定の河川に帰つて来てそこで産卵する特種の魚と信じられていたらしい。

生れた河川のもつ味や臭を覚えていて、それをたよりにして、帰つて来るとの説があるが、鮭のような下等動物がこうした記憶、それも四〜五年も前の幼若時代の印象が再生発現して、行動の要因となるなどは、考えられないことである。

探

魚

周知のように、鮭は淡水域でなければ初期発生をなすことが出来ない。また魚体が性的に成熟すると、河川のような淡水域に向つて海洋から溯上するのは事実であるが、こうした行動のメカニズムを説明するに當つて、記憶説などを採るのは、人人に都合のよい作爲的な説話にすぎないことは、遠くの他河川で放流した鮭が混獲されるのみをみてもわかる。一旦かうと信じ込まれると、その信仰はなかなか抜がたい。

またどこかの適当な河川に帰つて来るのだから……と云うては、ことだまの偉力がないような世の中では、まだ鮭の記憶による河がえり説を打破する科学力が生れてこない素地が充分あるのかも知れない。

日本海沖合漁場 開発調査協議会

日本水研主催のもとに表記協議会が十二月一日北水研所長および担当官、石川以北六県水産試験場長ならびに担当技師出席のもとに日本水研講堂において開催された。会議開催にさきだつて田内森三郎氏より資源監理にかんする講話、新潟県水産課長より日本海沖合漁場開発についての水産庁の方針が示され、その後左記のごとく各県の計画について説明が行なわれた。

青森県

北緯四〇度以南をA、四〇〜四二度をB四二度以北をC海区とし三月下旬より調査および操業を実施するのが適当とおもわれる。このさい当業者船には調査項目を明示しそれを必ず実施してもらうようにする。なお漁業調整の問題についてはあらかじめ検討する必要がある。

秋田県

県自体は出漁計画もあるが試験場としては特別な案はもつておらず協議会の決定をもつて計画する。

山形県

三月月上旬沿岸より沖合二五〇埋位まで一

漁業者のみた日本海産サケマスの種類

今まで日本海特以北日本海で漁獲されるサケ、マスの類には少なくとも四・五種類位あると思つている。こうした考えが分類

地名

主な特徴

体

重

漁

見

産地

一、アメマス	歯がない	一五匁内外	一本釣刺網	二―三月	外北	佐能
二、ママス	歯がある	二五―五〇匁	定置釣刺網	三―四月	外北	佐能
(くろくち)	口辺が黒い	三〇―五〇匁	定置釣刺網	三―四月	外北	佐能
三、ホンマス	尾に斑点なし	三〇―五〇匁	定置釣刺網	五―月	佐能	渡後
四、ホンマス	歯がある	五―一貫匁	定置釣刺網	五―月	佐能	渡後
五、サケ	尾に斑点あり	二、三―一、五匁	定置釣刺網	五―七月	越後	渡後

線をもうけ試験船により海況調査、漁撈試験を実施し漁場の確認をはかる。委託船による漁撈試験は実施する。

新潟県

銀山丸を運航すると同時に業者船を数隻出漁さし相互間に綿密な連絡をとりながら実施する。現在の観測ラインは日数の関係上倍加する事は困難である。

富山県

当業者船に調査員を乗船させ漁撈試験と同時に海況調査、生物調査を実施する。

石川県

当業者船は主として延縄、試験船は流網を使用して漁撈試験、海況調査、生物調査を三月中旬より実施する予定である。説明終了後漁業調整の問題当業者船の出漁隻数にかんし種々検討が行なわれたが、前者の問題と業者船の隻数をしぼるような事態の場合は六県協議会に日本水研所長より連絡してもらうよう要望があり、また漁業基地を指定してはいかんという案も提出された。

つぎに北水研より現在実施している奥尻島周辺の資源の資源調査ならびに漁況にかんする説明が行なわれたが生物調査については各水試では出来るだけ協力する事が確認された。(日本水研)

日本海区北部における微々たるサケマスの漁獲状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計	引用文献
青森県	29	—	1,000	5,000	11,000	—	—	—	17,000	水産統計 29 月報、月11月 31年による
	30	—	1,000	1,000	7,000	1,000	—	—	10,000	
	31	—	2,000	6,000	8,000	2,000	—	—	18,000	
秋田県	29	—	—	5,000	12,000	2,000	—	—	19,000	
	30	—	—	2,000	10,000	2,000	—	—	14,000	
	31	—	1,000	1,000	4,000	5,000	1,000	—	12,000	
山形県	29	—	—	1,000	3,000	1,000	—	—	5,000	
	30	—	—	3,000	3,000	2,000	1,000	2,000	11,000	
	31	—	—	—	4,000	3,000	2,000	—	9,000	
新潟県	29	—	3,000	14,000	14,000	6,000	—	—	37,000	
	30	—	—	12,000	9,000	10,000	—	—	31,000	
	31	—	8,000	28,000	32,000	12,000	1,000	17,000	98,000	
富山県	29	—	—	3,000	—	—	—	—	3,000	
	30	—	—	—	—	—	—	—	—	
	31	—	4,000	13,000	2,000	—	—	—	19,000	
石川県	29	—	—	4,000	1,000	—	—	—	5,000	
	30	—	—	3,000	1,000	—	—	—	4,000	
	31	—	5,000	21,000	2,000	—	—	—	28,000	
計	29	—	4,000	32,000	41,000	9,000	—	—	86,000	
	30	—	1,000	21,000	30,000	15,000	1,000	2,000	70,000	
	31	—	20,000	69,000	52,000	22,000	4,000	17,000	184,000	

尚、私共がアメマスと云っているのは、北海道の奥尻方面で多くとれるのと同じのものであり、釜石でサクラマスと云つてい

る。又アメマス、クログチと云っているのは、脂肪が極めて少ない。(筆者高野嘉吉)

人事移動

鳥取水試験場長決る
去る十一月一六日付
を以て星野退氏が場長
に任命された。

あとがき

何かと多忙であつた五六年もことなく送り新しき年を迎えました。さて、今年こそは仕事が順調に進み、そしてよい結果を得たいものであります。いつもながら発行が遅れて申し訳なく思つております。今後は万難を排し予定日に発行いたす積りで、身近かな出来事でも何でも結構です。すから気軽に御投稿下さいませ願ひします。(係)